

2020年7月1日
公益財団法人イオン環境財団

いのちあふれる美しい地球を次代へ

第30回イオン環境活動助成 公募開始

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、7月1日（水）から、30回目となる環境活動助成先の公募を開始します。

イオン環境財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立され、「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4つの分野を柱に、さまざまな環境活動をすすめています。

助成事業は、1991年より開始され、かけがえのない豊かな自然環境を守り、持続可能な社会の構築を目指し、世界各地で環境活動に積極的に取り組んでいる団体を対象に活動費の一部を助成する活動です。これまで、のべ3,059団体に総額27億7,979万円の助成を行っております。

地球環境を守る取り組みは、地球上のあらゆる生命を守ることに繋がります。また、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大も、多くの環境問題と密接に関係していると言われており、今後も最優先に取り組むべき課題と認識されています。当財団は今後も、地球市民として、環境活動を積極的に推進し、助成事業を通じ、助成先団体の皆さまとともに、地域に根差した環境活動に取り組んでまいります。

記

【第30回 イオン環境活動助成 公募概要】

基本テーマ： 「人と自然が育むゆたかな森づくり」

活動分野： 1. 植樹
2. 里地・里山・里海の保全・河川の浄化
3. 自然環境教育
4. 野生生物・絶滅危惧種の保護

助成総額： 1億円

対象団体： 持続可能な社会の実現に向け、環境活動に積極的に取り組んでいる非営利活動団体

活動対象期間： 2021年4月1日～2022年3月31日

募集期間： 2020年7月1日～8月20日

申請方法： ホームページからエントリー後、申請書を送付

* 詳細につきましては、ホームページをご確認ください <http://www.aeon.info/ef/>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】（公財）イオン環境財団 福島・ザリナ 電話 043-212-6022

ご参考

■公益財団法人イオン環境財団について

イオン環境財団は、時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続、実施しており、現在は「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4つの分野を柱にステークホルダーの皆さまとともに活動をすすめております。当財団の代表的な活動として、世界各地のボランティアの皆さまとともに実施する植樹活動があり、イオンの累計植樹本数は1,212万本を超えています。

＜公益財団法人イオン環境財団ホームページ： <http://www.aeon.info/ef/>>

【主な活動事例】

■イオンの森づくり

各国行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目指し、アジアを中心に、世界各地で植樹を行っています。当財団では、これまでに日本を含む世界11カ国で植樹を行いました。また、「植える」活動のほか「育てる」「活かす」活動にも取り組んでおり、そのひとつがユネスコエコパークとして登録されている宮崎県東諸県郡綾町と連携した森づくりです。伐採時期を迎えた町有林が中学校の建設材に活用されるとともに、その跡地に自生する樹種を植樹するなど、地域の皆さまとともに里山づくりに取り組んでいます。この他、森を活かした環境教育にも取り組んでいます。



綾町での植樹

■環境教育

【アジア学生交流環境フォーラム】

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的としてアジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について、国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。これまでに、10カ国のべ591名の大学生が参加しました。2019年は、「持続可能な平和のため」をテーマにカンボジア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、ベトナム、タイ、ミャンマー、フィリピン、日本から、合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間にプノンペンとシェムリアップ（カンボジア）で開催しました。



第8回ASEF開講式
(王立プノンベン大学)

■パートナーシップ

【国連環境計画生物多様性条約事務局との連携】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、顕著な環境活動が認められる個人・団体を顕彰しています。昨年は、国際連合大学において、第6回「生物多様性日本アワード」授賞式を開催し、株式会社コクヨ工業滋賀がグランプリを受賞しました。



第6回 授賞式（国際連合大学）

【日本ユネスコエコパークネットワークとの連携】

2017年8月に、日本ユネスコエコパークネットワークと当財団は「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護保全のみならず、自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークと連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。



第1回白山ユネスコエコパークフェア
(イオン御経塚店)

【東京大学、フューチャー・アースとの連携】

東京大学、ならびにフューチャー・アースと連携し、地球の環境変化や環境問題について、有識者による基調講演と参加者との対話型パネルディスカッションを通じて、より理解を深める「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。第4回は、「海の環境と資源を守る」をテーマに、本年2月、東京大学安田講堂にて実施しました。パネルディスカッションは2部構成で行われ、第1部では「海の環境と資源の問題、そして私たちがすべきこと、したいこと」と題した議論を行いました。第2部では、高校生による研究成果が発表され、世代や立場を越えた情報や意見交換が行われました。



第4回イオン未来の地球フォーラム
(東京大学安田講堂)

【一般財団法人リモート・センシング技術センターとの連携】

2019年7月に、一般財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC）と、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモート・センシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。リモート・センシングにより得られた地表の情報を活用し、森の状態を調べ、植樹地の状況を把握するとともに改善につなげます。また、環境教育も実施しています。



エコプロでのミニ環境教室
(東京ビッグサイト)